



TITLE:

春

AUTHOR(S):

星見小路

CITATION:

星見小路. 春. 天界 1926, 6(63): 161-161

ISSUE DATE:

1926-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160537>

RIGHT:

天 界

(第 六 卷)

第六十三號

大正十五年四月

春

春來れば
あら
曠野の末に水ぬるむ
小川の岸に野茨の
白き花亂れ咲く如く。

春來れば
蒼窮の果て、光みち
深淵の底ゆ、もろもろの
星の花亂れ飛ぶ。

冬ごもり
春去り來れば夜の空
やはらかく風ぬるむ
人の子よ。仰がすや
天上の花。時は今

亂れ咲く、地上の花は
春去れば散り逝くものを
亂れ咲く、み空の星は
そこしえに微笑むものを。

されば君、人の子よ。
大空の常世の花を
仰がすや、時は春
夜は暖にして風ぬるむ。

『さり亂し心せばしき日も過ぎて
夕げの後の珈琲に
リモネを搾る心』もて、
人の子よ語れ、春の夜に
亂れ散る星々を。